

1. 土づくり

(1) 土壌改良資材の施用

- ・土壌中のケイ酸やカリの不足を補うため、昨秋に土壌改良資材を施用していない場合は、必ず春に規定量を施用しましょう(表1、図1)。

表1 土壌改良資材の施用量の目安

資材名	施用量 (kg/10a)	成分量 (%)	
		ケイ酸	カリ
加里入りシリカエールプラス	100	23.0	3.0
シリカエールプラス	100	25.0	—
グリーンウェイブ DX ペレット	100	31.2	2.9

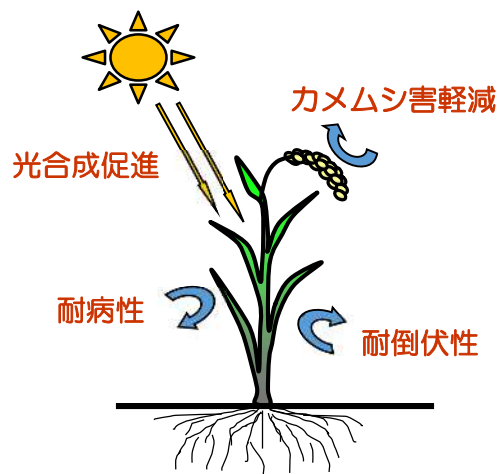


図1 ケイ酸の施用効果

(2) 作土深の確保

- ・耕起時は作業速度を落とし、作土深を 15cm 以上確保しましょう。
- ・畦畔からの漏水を防ぐため、畦塗り作業は丁寧に行いましょう。

2. 畦畔雑草の処理

- ・4月下旬までに畦畔の草刈りや除草剤散布を行い、斑点米カメムシ類の生息地となるイネ科雑草(図2)を減らしましょう。



スズメノカタビラ スズメノテッポウ

図2 イネ科雑草

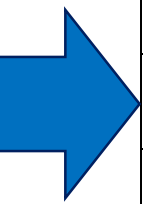
3. 育苗計画の策定

(1) 育苗計画の目安

- ・浸種積算温度 100～120℃・日程度となるよう確実に浸種しましょう。
- ・ハウスの換気に努め、苗の徒長・老化を防止しましょう。
- ・密苗の育苗日数は慣行苗より3～4日短くしましょう。
- ・高温登熟回避のため、「コシヒカリ」の田植えは5月 15 日を中心としましょう (表2)。

(裏面に続く)

表2 育苗計画の目安(慣行苗)

品種	浸種	催芽	播種	出芽	搬出	緑化 ～硬化	田植	育苗日数
てんたかく	3/28		4/10		4/13		5/2	22 日
コシヒカリ	4/17		4/26		4/29		5/15	19 日
新大正糯	4/23		5/2		5/5		5/20	18 日

(2) 育苗中の温度管理

- ・適切な温度管理により病害の発生を抑えましょう。
- ・ハウス内の温度は、風下側の裾を上げるようにして換気を行い、調節しましょう(表3)。

表3 温度管理方法

作業	浸種	出芽	搬出後
温度管理	水温 10～15℃ <u>浸種初日は 10℃を 下回らないよう注意</u>	育苗器 30℃	ハウス 昼: 25℃以下 夜: 10℃以上

(3) 育苗中の病害対策

- ①適切な薬剤処理により病害の発生を抑えましょう(表4)。

表4 病害防除方法

対象病害	薬剤名	希釈倍数	散布量	散布時期
ムレ苗 苗立枯病	ナエファインフロアブル	1,000～2,000 倍	500ml 灌注/箱	播種時 ～緑化期
	タチガレエース M 液剤	500～1,000 倍		播種時 ～発芽後

- ②JA からの購入苗は箱粒剤を散布済み(育苗ハウスで野菜を栽培する場合に注意)。

～種子消毒等の廃液は適正に処理しましょう～

徹底しよう！農業機械の転落・転倒防止！

 全フレーム付きトラクターの利用  ヘルメットの着用  シートベルトの着用

【お問い合わせ先】

JA いみず野営農指導課 TEL: 52-6805 高岡農林振興センター射水班 TEL: 26-8478

JA いみず野ホームページ <http://www.ja-imizuno.or.jp>